

【様式】

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名(神戸高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿	○不断の進化を続ける伝統ある進学校 ○生徒、保護者、地域から信頼され、期待される学校
(2) 育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)【グラデュエーション・ポリシー】	○自らを知り、自分の目標に向かって挑戦し続け、社会に貢献できる生徒
ありたい教職員の姿	○「生徒の育成」を願い、授業の充実や学校運営に進取の「気概」を持ち、「知恵」を絞ると共に「和」して働く「協働」の精神を持つ教師集団

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	〈生徒〉 学力の向上と希望進路実現、充実した教育内容と楽しく安全安心な高校生活環境 〈保護者〉 子どもの学力向上と進路保障、基本的な生活習慣の確立、豊かな未来を切り拓いていく人づくり 〈地域社会〉 地域の伝統校としての進学実績向上、地域を担うリーダーの育成・輩出	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	〈保護者〉 学習・進路・生活面でのきめ細かい指導 〈地域社会〉 地域の伝統校としての地位向上と将来を担うリーダーの育成 〈中学校〉 地域の進学校としての存在意義 〈地元大学〉 高大連携、目的意識醸成と基礎学力育成	〈保護者〉 学校と家庭間の連携と支援、信頼関係の構築 〈地域社会〉 学校運営への支援・協力、キャリア教育充実のための連携と協力 〈中学校〉 生徒の学習習慣の定着と生活習慣の確立 〈地元大学〉 高大連携の充実・促進
(3)前年度の学校関係者評価など	①学校改革について、鈴鹿地区全体のことも視野に入れながら令和9年度までの具体的な計画を示す必要があるし、具体的な計画と指標の設定が必要ではないか。 ②「職場の風通し」については、管理職がいかに関心しやすい空気を作れるかにかかっている。 ③50分×7限では、生徒が「自分で学習に向かう時間」や「主体的に考える時間」が取れないのではないか。学校での学びは、生徒にも教員にもゆとりがあるものにすべきである。 ④今後進んでいくであろう高校の統廃合について、小中の場合のように地域を意識しすぎるとなかなか前に進まない。高校は危機感を持って主体的に取り組むべきである。 ⑤大学でも配慮の必要な学生が増えてきている。一方で不登校生徒に対する「遠隔授業」など高校での授業の在り方も変わってきている。このような変化に柔軟に対応していく必要がある。	

	教育活動	<p>【現状】 コロナ禍以降、学校や授業への向き合い方が以前とは違う生徒が増えてきている。学校には、まずは安心安全が確保されていること、生徒ひとり一人が主体的に活動できて楽しいと思えること、大学進学に向かうための確かな学力が身につくことへのさらなる充実が求められる。</p> <p>【課題】 ①教育相談やカウンセリングの充実 ②ICTを効果的に活用した主体的で対話的な50分授業の展開、家庭学習の質の向上 ③DX推進事業を効果的に活用した課題研究や探究活動の充実</p>
(4)現状と課題	学校運営等	<p>【現状】 ①各教員は教科指導、進路指導、生活指導、部活動指導等において真摯に丁寧に取り組み、全体として落ち着いた雰囲気での教育活動が実践できている。 ②50分×7限授業、進学を見据えた課外への取組、主体的な取組を実践する場として、探究活動（課題研究、「鈴鹿学」）に加え、多彩な部活動にも積極的に取り組んでおり、進学実績においても一定の成果をあげることができている。</p> <p>【課題】 折からの少子化、多様化に加え、コロナ禍以降、学校を休むことに抵抗のない生徒、我慢や地道な努力が苦手な生徒が増加してきており、今後も学力の二極化が進むと思われる。このままの状態が進んでいくと生徒も教員も疲弊し、多大な努力が思うように実らず、お互いが苦しい状態に追い込まれることが懸念される。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	<p>①授業内容の改善やICTを効果的に活用した授業力向上に、組織的に取り組む風土を醸成し、生徒の無限の可能性を引き出す。 ②生徒の学習意欲と学力向上を図ると共に、早期から生徒に進路意識を持たせ、個々に応じた進路実現を図ることができる。 ③生徒がありのままの自分を肯定し、価値ある存在として自己認識するために、主体的な取り組みを継続させる。</p>
学校運営等	<p>①生徒が自分の目標に向かって、主体的な学習活動ができるような新たなカリキュラムを構築するために、カリキュラム委員会及びプロジェクトチームを中心に、計画的な取組を進める。 ②その動きに合わせ、生徒、教員ともにゆとりとやりがいを持って取り組めるよう、これまで取り組んできた50分×7限授業や進学課外、CSの取組などを分析、精査する。</p>

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	○興味・関心・探究心を持ち、さらにその興味・関心・探究心から、様々なことにチャレンジする生徒
---------------------------------	--

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
安全安心な学校生活	<ul style="list-style-type: none"> ○交通事故防止 ○命を大切にする教育 ○自他を尊重し、積極的に人と関わろうとする仲間づくりの推進 ○いじめの未然防止 ○教育相談体制の充実など ○健康の保持増進に対する意識の向上 【活動指標】 ・交通安全講話、単車通学許可者へのスクーリング ・登校時の安全指導・挨拶運動の実施 ・日頃の授業、学級経営、人権学習、研修会、合宿、学校行事の中で、他者との協働・発表の機会を積極的に設定し、個々の生徒の成長を図る。 ・いじめアンケートや集会等での講話(命の講話含む)の実施 ・担任による定期的な面談の実施 ・教育相談に関わる情報共有の強化、事例検討会の実施 ・心の問題の早期発見、教育相談との連携、外部機関との連携 【成果指標】 ①登校指導の実施(年 30 日以上) ②自転車/バイクの事故件数:0件以下 本校生徒の過失による事故件数:0件 ③・いじめアンケートの実施:年3回 ・いじめ撲滅のためピンクシャツ運動等の啓発:年 10 日以上 ・いじめ重大事態 0件 ④担任による定期的な面談の実施(年 3 回) ⑤教育相談推進委員会:年4回ほか随時 ⑥・「保健だより」の発行:年8回 ・大掃除の実施:年 5 回 ・生徒保健委員の活動:年8回 ・生徒美化委員会の活動:年 5 回以上 	(年度末に記載)	<ul style="list-style-type: none"> ※ ◎ ◎ ※
将来を見据えた学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○効果的な観点別評価や1人1台端末に対応した授業の質の向上 ○家庭学習習慣の定着、質の向上 ○校外活動への積極的参加 ○探究的活動(理数科「課題研究」 普通科「鈴鹿学」)の充実 【活動指標】 ・DX 推進事業の活用により、より一層、ICT を活用した授業・学級・学校づくりを推進する ・1人1台端末を活用した授業の公開・研究 ・家庭学習に係る実態調査の実施、分析、共有 ・地元小中学生に対する学習指導や実験教室の実施、充実 ・大学や研究施設との連携、訪問授業や企業訪問の実施 ・生徒の発信力・プレゼンテーション力の育成を目指した発表機会の充実 ・ICT を活用した進路指導の充実 【成果指標】 ①生徒による授業評価(主体的活動): 60%以上 	(年度末に記載)	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ◎ ※

	②授業満足度・理解度:50%以上 ③学びの基礎診断(スタディサポート)より ・1年次第1回 GTZ(3教科平均)と比較して、2年次第1回で上昇・維持した生徒の割合:70%以上 ・学習到達度 B3以上:60%以上 ④科学オリンピック、みえ科学探究フォーラム等への積極的参加 ⑤「プレスズ・鈴鹿学」の取り組みにおいて、1年生(年2回)、2年生(年3回)の成果発表会を行う ⑥図書館貸し出し冊数1人当たり:年3冊以上/年		
進路指導・キャリア教育の充実	○生徒の早期の進路意識向上と希望進路の実現 ○総合型選抜・学校推薦型選抜への対応 【活動指標】 ・進路ガイダンス・進路講演会・大学説明会等を通じて、生徒・保護者への情報提供を積極的に行う。 ・探究活動(「課題研究」・「鈴鹿学」)の成果を生かした進路実現 ・地元小中学校との連携を図り、小中高、連続した学びを実現 ・企業による出前授業・キャリア関連講演会・説明会や職業体験などへの生徒の積極的参加を促進する。 【成果指標】 ①企業・大学との連携事業を年3回実施。 事後アンケートの生徒の満足度60%以上 ②・小学校への出前授業実践(年1回) ・中学校への出前授業(のべ3回以上) ・小中学生向け公開講座の実施(年1回) ・中学校へのティーチングアシスタントを派遣(年4回) ③入試対策面接練習:1人につき3回以上実施 ④・国公立大学合格現浪計:80人以上(内、三重大:25人以上) ・内、総合型選抜・学校推薦型選抜合格者:全体の30%(24人)以上	(年度末に記載)	
部活動の充実	○「文武両道」と部活動を通じた人づくり 【成果指標】 ①生徒の部活動加入:85%、3年間継続:80%以上 ②東海大会以上出場クラブ数:5以上	(年度末に記載)	
改善課題			
(年度末に記載)			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教員の指導力向上	◎授業の質の向上 ○ICT活用, 観点別評価, 高大接続, 人権教育, 教育相談等の研修会の実施 ○校内外研修会への積極的参加 【活動指標】 ・ICTを効果的に活用した授業公開・研究の実施 ・「観点別評価」の効果的な活用手法の研究 ・教職員のカウンセリングマインドの向上	(年度末に記載)	

	【成果指標】 ①授業理解度:50%(Top Box) ②授業での Chromebook を含むICTの活用:80%以上 ③指導方法に関する教員の肯定的評価:50%以上(TopBox) ④教育相談に係る講演会、研修会の実施:年4回 ⑤職員満足度調査の研修項目肯定的意見:70%以上		※ ◎
教育改革対応 及び学校運営 全般	○DX 推進事業の活用により、校務運営の向上を図る ○学校の魅力発信力強化 ○生徒・保護者・地域のニーズを把握し、信頼され応援される学校づくりの促進 ○教職員のコンプライアンスの遵守 【活動指標】 ・ホームページや SNS、classroom を活用し、学校の魅力発信を積極的に行う ・令和9年度に向けたカリキュラムの改定に着実に取り組む ・小さい単位でのコンプライアンスミーティング等の実施 【成果指標】 ①ホームページ、SNS の記事の更新(月2回以上) ②教職員への ICT 研修会の実施:年5回以上 ③「カリキュラム委員会」の定期開催(月に1回)と進捗状況の確認 ④新カリキュラムの策定(R7年度中) ⑤受検倍率:前期3倍、後期1.3倍確保 (2025参考:前期2.5倍 後期1.17倍) ③教職員による不祥事0件	(年度末に記載)	◎ ※
働きやすい 職場づくり	○風通しが良く何でも言い合える職場づくり ○時間外勤務の削減と働きやすく働きがいのある職場づくり 【活動指標】 ・SSS の効果的な活用 ・DX 推進事業の活用による業務改善 ・部活動外部指導員・サポーター等の活用促進 ・管理職による教職員との対話による面談:年間3回以上 ・教職員満足度調査の実施 【成果指標】 ①定時退校日1日以上/月・定時退校者率:90%以上 ②一人当たりの月平均時間外労働:20時間以下 ③年間360時間を超える時間外労働者:0人 ④月45時間を超える時間外労働者の延べ人数:0人 ⑤1人当たりの年間休暇取得日数:18日以上 ⑥職員満足度:30%以上(Top Box) ⑦放課後に開催し60分以内に終了した会議の割合70%以上 ⑧計画通り休養日を実施できた部活動の割合90%以上	(年度末に記載)	◎ ※
改善課題			
(年度末に記載)			

6 学校関係者評価

明らかになった 改善課題と次への 取組方向	(年度末に記載)
-----------------------------	----------

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
学校運営についての改善策	(年度末に記載)